

富士市立高等学校学校運営協議会準備委員会

第4回 議事概要

- 開催年月日 平成24年1月10日(火)
- 開催時間 午後6時30分から午後8時30分
- 開催場所 富士市立高等学校会議室
- 出席者 [学校運営協議会準備委員会委員]
安藤 肇 奥園好文 加納孝則 高田 稔
内藤栄一 畑 隆 渡邊利夫 渡辺泰明

[教育長]
山田幸男

[教育次長]
鈴木清二

[教育総務課・市立高校]
池田和明課長 他教育政策担当
齋藤照安校長 小林政樹事務長 他教職員

- 会議の概要

- 1 開会

- 2 教育長あいさつ

- 皆さまこんばんは。高いところから失礼します。ただいまご紹介いただきました山田幸男でございます。平岡前教育長のあとを受けまして、12月24日付けで教育長を拝任致しました。どうぞよろしくお願ひ致します。

- ここには車で参りましたが、ちょうど吉原本町あたりのところで、久しぶりに寒行の方に出会いました。私も子どもの頃、寒行でこんな寒い時期に太鼓を打ち鳴らしながら町内を回りました。こうした一番寒い時期に、委員の皆さんにお集まりいただいて、大変ありがとうございます。

先般、就任の挨拶ということで、県教委にお邪魔しました。その折、スポーツ振興課の課長から「市立高校はどうですか。また、ゆっくり高校のことを聞かせてください。」と言われました。特にスポーツ探究科に関心を示されておりました。それ程、あちらこちらで期待の高い学校であることを就任早々感じました。

本日は、学校運営協議会準備委員会の第4回目ということですが、是非皆さんの知恵をお借りしながら、より良い高等学校にしていけたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

3 委員長あいさつ

皆さま、明けましておめでとうございます。昨年は東日本大震災が起き、それに関連して原発事故も起きるなど、日本にとって受難の年であったと思います。しかし、富士市立高校が誕生してから10ヶ月経ちましたが、確実な歩みを踏み出したのでないかと思っております。この歩みがさらに確実なものとなるように、本委員会が貢献できればと思っておりますので、平成24年もよろしくお願い致します。

4 議事

(1) 富士市学校運営協議会規則について (事務局より説明する。)

[畑委員長]

ご説明ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、何か質問はございますか。

[A委員]

学校運営協議会は、今まで学校になかったわけですね。ここで作るということは、何をねらうのでしょうか。地域住民や保護者等が学校運営に参画することで信頼関係を深めるのか、協議会を改めて作ることによってどういうものを目指すのか、教えてください。

[事務局]

これまで、学校が地域住民や保護者からアドバイスをもらうのに、学校評議員制度がありました。委員は校長からの推薦で、各学校5名程度です。校長があくまでも個人的な意見をもらう制度であり、委員の意見に対して学校が必ずしも答えを返さなくても良かったわけです。

これに対して、学校運営協議会は一つの機関としての意見を学校に提示するものであり、その意見に対して学校は必ず答えを返していかなければなりません。そういった意味で、学校評議員制度に比べ、この学校運営協議会は、地域住民や保護者の意見を尊重する度合いが高いということです。

学校運営協議会を設置する構想は、この改革に取り組み始めた早い時期から話があがっており、この度、その本格的な準備に取り組むことになったわけです。

[B委員]

この準備委員会とこの規則に沿った協議会との関係性はどうなっているのでしょうか。

[事務局]

今回作ったものは、小中高すべての校種に関わる規則です。これを作っておかないと学校運営協議会の設置ができません。この後、市立高校が本格的に学校運営協議会を実施することになった場合、この規則の下に会則を設けて、市立高校に合ったルールを作ります。

[C委員]

準備委員会の見通しを教えてください。このあとどのくらい準備委員会で協議をするのでしょうか。

[事務局]

今年度は試行という形でやらせていただきましたので、最終回となる次回にその反省を皆さんに出してもらおう予定です。それを基にして、平成24年度の前期で集中的にその内容を検討する予定です。前期に検討して、後期にその準備をすることを考えますと、本格的な立ち上げは、平成25年度になろうかと思います。

[D委員]

協議会の庶務を担当するのは、どこでしょうか。また、ここでいう富士市教育委員会は、教育委員が集まった教育委員会なのか、それとも事務局なのか良くわかりません。また、委員を委嘱したり任命したりするのは、教育長なのでしょうか、それとも教育委員長なのでしょうか。

[事務局]

委員の任命は、教育委員が集まった教育委員会ということになります。庶務担当につきましては、これまで準備の段階では教育総務課がやってきましたが、今後、本格的な運営協議会になった場合につきましては、教育委員会にするのか、それとも協議会自体に担当を置くのか、ただ今検討中です。

[C委員]

まだ、全国的に学校運営協議会の数は少ないと思いますが、今後、教育委員会でも市内の小・中学校へ広げていくつもりですか。

[事務局]

教育委員会としては、小・中学校から希望があれば、すぐにできるように制度として整えておくという姿勢です。ですので、今のところ、すぐに広げていく予定はありません。ただ、県の方からは、小中学校でもやったらどうかという話はきています。

(2) テーマ協議「夢実現高校の理解について」

(事務局・校長より、テーマ設定の趣旨等について説明する。)

[畑委員長]

ご説明ありがとうございました。それでは、今回のテーマについて自由かつ活発にご意見を出していただければと思います。どなたからでも結構ですので、いかがでしょうか。

[E委員]

2つ話をさせていただきたいと思います。1つは、私の知り合いのお子さんの話です。今年、高校を受験する中学生なのですが、運動をそこそこやる子ですのでスポーツ探究科を勧めたところ、学校説明会に来てくれました。その際、スポーツ探究科でも大学を目指さないと駄目だと言われたそうです。本人は大学進学をまったく考えていないので、志望先を変更したという話を聞いてちょっと残念でした。

もう1つですが、この会に私は学校後援会の役員という立場で出席させていただいているわけですが、後援会役員のほとんどが自分の子弟が吉原商業高校にお世話になった、PTAの経験者たちです。その方たちから、吉原商業高校は勉強が少々できなくても入れる公立高校

で、自分の子供は余り勉強が好きではなかったが、スポーツ等の部活動を通じて高校生活を存分にエンジョイすることができた、自分の子供たちを吉原商業高校で学ばせて大変良かったという話を聞きます。しかし、学校が新しくなって、入るときのハードルが高くなってしまい、勉強がそこそこ出来ないと入れない学校になってしまいました。私も野球をやっている子供たちに「市立高校に来いよ。」と声を掛けると、「とても自分の学力では行けません。」と小学校高学年や中学校に入ったばかりの子どもに言われました。市立高校には勉強ができなければ行けないと思って、端（はな）から私立のスポーツをやる学校に行くと言われてしまったので、そのところは少し残念な気がします。何か方策はないのかと思います。

[F 委員]

中学校の立場で話をさせていただきます。市立高校の出口が見えないという声が中学校にあるという、先ほどの校長先生の話はまったくその通りです。市立高校の出口をなぜ進学に向けたのか、その辺の説明が良くわかりません。私の学校ですと、進学をするのなら近くに歩いて通える普通高校があり、就職をするのなら別の高校があります。今まで、商業系の就職を考えるなら商業高校と考えていましたが、今度はあまり就職を考えておらず、ほとんどの子に大学進学を目指させるということです。ですので、うちの子は就職をさせたいという気持ち強い保護者は市立高校に目がいきません。

どういう学校に進んでいるのかを説明する責任は、もちろん中学校側にもありますが、中学校の教師もわかっていないのが現状です。特に「探究」という言葉の意味が十分に伝わっていないかもしれません。先ほど探究学習のところで、自ら課題を持ち自ら学んで知識を獲得するという話もありましたが、実際、高校がどういう支援を考えているのかが中学校の現場でもまだ見えていません。ただ、本校からお世話になっている子供たちは、非常に伸び伸びと生活していることは確かです。毎朝、子供たちは自転車で通っていますが、今日も元気に通っていました。それに対して、ある私立に行った子どもは、「とにかく詰め込みで何も面白くない。」とこぼしていました。

多くの1年生たちには「君たちが市立高校を創るんだよ、志や気概を持ってやるんだよ。3年後を期待しているよ。」と話しています。結果は3年後になってみないと分かりませんが、今年も多くの子供たちが入試を控えています。

[D委員]

今の1年生は、どんな夢を持って入ってきているのでしょうか、その把握はされていますか。例えば高校に入って、その後どうしたいのか、ゴールはどこにあるのか、そこら辺のことを学校で調べているのかどうかお伺いしたいと思います。

また、せっかく個性のある3つの学科があるので、その学科の特徴をもっと出して、そこに入ってくる子供たちがどうしたいのか、進学したい者は進学すれば良いですし、子供を中心にいろいろ考えてあげる方が良いのかなと思います。どうも大人のイメージで、こういう方向にしようよと無理やり改革をして、その姿を勝手に作っている、子供の意見があまり反映されていないのかなという感じを受けました。

[校長]

12月の末に生徒に調査をしたところであり、これから集計しますので、次回にはご報告できると思います。

[B委員]

今回のテーマが「夢実現高校の理解について」ということです。この高校の方向性が見えないという声があるけれども、我々がそれにどうやって応えていくかということが趣旨ですよね。ですから、我々自身が今の実際の活動や高校の実態を的確に捉えていないとお答え出来ないという問題だと思いますが、先生や現場の声をある程度無視して、私が勝手に考えたということで話をさせていただきます。

資料に、高校のミッションは教育の質と出口保障と書かれています。私が考えるこの学校のミッションは、これとは感覚が違います。この学校が生まれた意味は、学校と生徒と社会（保護者、地域）の3つが、それぞれ“WIN-WIN”（お互いがプラスになる）の関係をすることだと思っています。学校と生徒が“WIN-WIN”ではなくて、もっとそこに社会や地域というものが存在します。そして、やはり、富士市立の学校なので、市が運営して何億円もの金を使って存在する学校ですから、富士市にとって意義のある学校を作ろうということで生まれたのだと思っています。

また、単なる進学校ではなく、新しいタイプの学校というのは、まったくその通りだと思います。これを表現するのは、とても難しいです。実際に、新しいタイプの学校と言われても皆さんも答えられないし、我々も答えられない。例えば、今年の1年生がどんな夢を持って

いて、本人の人生設計なりライフプランの中で、今のここをどうするのかを教えるのが探究だと思います。そこで、夢の把握やこの部分を強調して、情報公開をする必要があります。もちろん、これは個人情報に関わる問題ですので、どこまでやって良いかわかりませんが。学校はこれまで閉鎖的だったり、個人情報のプライバシーを公開しませんでした。いくつかの防衛をするにしても、どんな新しい生徒がここに生まれ育っていくのかを情報公開すべきだと思います。どうPRすべきかと書いてありますが、うそであったり、飾ったようなPRはすべきではありません。今、この学校でどういうことが起きているのか、どんなキャリアプログラムを組み、何を学科で行い、部活動がどう動いているのかをどこまで一般に情報公開できるか。マーケティングであったり、PRの基本というのは、強みをどう生かすかです。素晴らしい生徒が入ってきているのを私も実感しているので、そのどこが素晴らしいのかを具体的にどうやって公開するのか考えて欲しいと思います。また、教員の努力のプロセスを公開しても良いと思います。それらが、これから受験する生徒の動機付けになり、こういう学校だったら行ってみたいということになります。

会社経営をしていますと、社長として30年先10年先の長期のビジョンを作りますが、一般のスタッフと共有できるビジョンはせいぜい3年です。ですから、3年先や1年先の達成感のある目標や夢の設定を共有できなければ、その先のビジョンはなかなか作りにくいと思います。そこで、一人ひとりの生徒に3年後の自分をイメージさせ、具体的に表現させ、名前を伏せて公開していけば、それが目指す学校像につながると思います。

また、社会や地域の力を借りていくことを前提にこの学校の運営をするのであれば、社会や地域及び一般の方にこれをリターンしていく努力をしなければならないと思います。

[委員長]

確かに、経営学者であるドラッカーも強みをPRせよと強調しています。

[G委員]

市立高校と聞いたときに、以前、NHKの番組で取り上げた京都の高校を思い出しました。資料の「探究学習によって学習意欲が高まる。」という箇所は、その高校では「知りたいのスイッチを入れる。」という

表現をしていました。子どもたちが元々持っている「知りたい」とか、「なりたい」のスイッチをいかに入れるのか。そこに、最新のことをやっていくということですね。そして、気に入っているのが、「そうして生徒自らが身に付けた知識は、真の知識として蓄積される。」という箇所、この表現はいいなと思います。高校の場合、確かに詰め込みでいろいろな知識を教えています、それが実際に役に立つかといえば疑問です。自分で見つけた答えだけが、いつでも引き出して使える知識になるという方もいらっしゃいます。これを市立高校が目指しているのは間違っていないと思います。

京都のその高校では、なりたい職業ややりたい進路をイメージして大学を選ぶ。我々が大学を選んだときは、その学校に行けるかが大学を選ぶ基準だったような気がします、その高校ではそうではなくて、こういうことをやりたい、こういう風になりたい、そのために進路がある、だから自分はこの大学に行くといった感じです。子供のスイッチを入れた先の手助けをしていくのは良いのではないかと思います。そのために必要なことは、言葉によるPRも大事だと思いますが、来校者が「感じる」ということだと思います。要するに、学校の本気度が伝わるかです。難しいのは、先生方が「こういう学校を目指しますよ。」というのを言葉で分かっている、意識がそこにいけるか、実践できるか、本気になれるかということです。それは、自然に子供に伝わりますし、子供の具体的な姿になって表れてきます。そうすると、それが意味でPRになると思います。NHKの番組でも、最後は生徒の言葉で締められており、「先生、勉強ってしんどいけどおもしろいわ。」と校長先生に話していました。そういうものを市立高校でも目指していけば良いのではと思います。学ぶのは大学受験ではなくて、生涯に渡って学ぶ姿勢です。自分で知りたい、主体的に働きかけ、おもしろさを見つける。そこには当然厳しさもあるでしょうし、大変さもあるでしょうが、それを乗り越えたときの充実感を目指しているという意味では、大変良いのではないかと思います。

先日、友人の高校教師とも話をしたのですが、学校で難しいのは組織の体質を変えることです。やはり、教員は今まで自分がやってきたやり方があるので、そこからなかなか抜け出せないところがあります。高校では教員同士がお互いの授業を見せ合って改善点を話し合うことを余りやらないそうですが、京都のその高校が成功したときは、それが当たり前になったわけです。授業改革や探究の授業について、先生方が本気になって取り組むことができれば、それが生徒に伝わり、保

護者に伝わりと良い情報の口コミを生むことになると思います。

[委員長]

「知りたいのスイッチを入れる」というのは、モチベーションを高めるという意味で探究学習がねらっているところであり、とても大事なことだと思いました。

先ほどのF委員からの話は、市立高校の方向性について、今、中学の先生方の間で存在している声だと思います。その点についても委員の皆さまからいかがでしょうか。それ以外でもかまいません。

[C委員]

1年生が市立高校に入って約半年間、探究学習をやって、ものの見方や考え方が少しでも変わったのであれば、中学生が高校へ来るような機会に、1年生自身に自分たちの学びの様子を伝えさせるべきです。今、先生方同士の話だけでは、中学校から市立高校を見たときに何となくわからない現状があります。保護者の側から見ても、レベルが上がって入りにくいだとか、それは想像の域でしかないので、現実のものとして伝えていくためには、やはり、生徒自身に語らせることで、生徒の生の様子が伝わると思います。

[F委員]

実は、今年の成人式で市内の別の高校がアトラクションに出たときに、何で市立高校はやらないのかと思っていました。しかし、今年の成人式では市立高校のチアリーダーが出演し、どの校長もみんな感激していました。こんな素晴らしい部活動があるのに、何でもっとアピールしないのだろうという声がありました。素晴らしいチアリーダーがいる、人工芝の素晴らしいグラウンドがある、パソコン教室がいくつもあるような整った施設がある、そういうところをもっと宣伝しても良いのではないのでしょうか。少し宣伝不足で、周りに浸透していないのではないかと思います。

本当は市立高校に行きたかった。でも、進学という言葉が出ているので、別の高校にしたという生徒がけっこういます。しかし、入学時の希望が就職であっても、3年間やっている中で自分がもっと勉強したい、もっとこうしたいということで、大学を考えるのでも良いのではないのでしょうか。まず始めに、就職ありきでも大丈夫というところをアピールしても良いのではと思います。今、うちの学校で市立高校

を希望している生徒の中に、なぜ近くの進学校に行かないのだろうかと思ってしまうような成績の良い子がビジネス探究科を希望しています。しかし、この子は就職を希望しています。こういう子が探究をやった結果、「就職希望だったけれど、進学に変わったよ。」と語らせることが大事だと思います。どうしても私たち教師のレベル、親のレベルで選んでいることが多いのですけれど、もっと子供に考えさせることも市立高校ならできるのではないかと思います。

[B委員]

市立高校の進路は、就職ではなく進学であるという一般的な見方があり、ビジネス探究科ですと延長線上に大学があっても良いし、その手前で社会に早く出たいという生徒がいれば、もちろん就職しても良いというスタンスが曖昧で分かりにくいというのが一般の評価だと思います。そこで、実際にビジネス探究科では、進学と就職の割合をどの位にしようという目標を設定しているのでしょうか。それがあれば伝えやすいかなと思いますので。

[市立高校教職員]

これまで検討してきた中で、なぜ就職ではなくて進学ということになったかという話をさせていただきます。先ほど委員会とか学校という大人が主導している部分が多いのではないかという指摘もありましたが、それをやらなければならなかった流れがあったわけです。

ここ数年の市立高校の進路割合は、進学と就職がほぼ半々で、少し就職が多い程度です。そして、進学する生徒の1割程度が大学で、残りが専門学校です。また、就職する生徒たちのうち、高校がメインターゲットとしていた職種である事務系に就けるのは、約10人程度です。さらに、事務職でも金融系の就職口はなくなってきています。これは、学校や教員のPR不足が理由ではなくて、会社から商業高校からは採りませんと宣言されてしまっています。それは、この学校だけがそういう状況にあるわけではなくて、全国的にそういう状況にあります。こうした状況を受けて、商業科自体が統合されたり総合学科になったりして、その数が減少しています。そうすると、本校のビジネス探究科で就職を進路のメインにするのは、そもそも進路先のないところに行かせますということを宣言するようなものです。ビジネスを学ぶ者が将来ビジネスの現場で活躍することを考えたら、高校を卒業してすぐには、これまで就職できていたような事務系・販売系の就職

口はありません。しかし、専門学校や大学に進めばそれがあるのです。そもそも商業高校を卒業して就きたいという職種は、そういう状況になっています。やはり、大学や専門学校などの次につなげることを考えなければ、イメージするような職に就けないだろうというのが議論の流れです。ですから、大きな方向性としては、就職をメインターゲットとすることはやめましたということです。どんな職種でも良い、製造現場でも良いというのであれば、工業高校の方が明らかに仕事と勉強が直結しています。商業高校で学ぶことと実際にやらなければならない仕事はかけ離れています。製造現場という職種では、競合する相手にはかなわないだろうということで、今後の方向性を考えたわけです。

そういう方針を打ち出して、中学校にも少しずつ伝えてきましたが、今年の1年生でも大学進学を目指している生徒もいれば、専門学校や就職を希望している生徒もいます。今の現状であれば、企業との関係が切れているわけではないので、就職を希望する者に対して学校として対応できると思いますが、そのときに果たして、本人が夢を持って、こういう仕事に就きたいと思っている仕事とのギャップを埋められるのかということ非常に難しいだろうと思います。

こうした考え方がまだ地域や保護者に浸透できていないというのが今の現状です。

[委員長]

ただ今の説明で、今度の新高校がどういうコンセプトで設計されてきたのかがおわかりになったと思います。私も、大手流通業では高卒の正社員は採用しないというのを聞いたことがあります。今の話に重なると思いました。

[A委員]

市立高校では、受験も指導し部活動も強化するということですが、保護者の皆さんは勉強も部活動もいろいろするのは、非常に難しいし、この学校はどっちにいくのだろうと不安を抱えているのが今の状況です。受験も指導し、部活動も強化するとしっかりPRするのは必要だと思いますが、中学を卒業して市立高校を目指す生徒に対して、「あなたは就職だからだめだよ。」というのはどうだろうかと思います。自分の子供もそうですが、中学3年時の夢が高校を卒業する時の夢になっているかということそうではありません。やはり、現実的な夢を生徒に

描かせてあげるとというのが、高校3年間の先生方の役割だと思います。最初は就職を考えていた生徒が、探究をやったことでもう少し高度な知識を得なければならないと自分で気づいて、進学しても良いし、そのまま就職でも良い。要は、より輝いた生徒を出していくのが探究の役割だと思います。そして、そこでは、学校の本気度も問われるということです。生徒が輝けば、周辺の人たちも学校が変わったなと感じることが出来ますし、それをもっとPRすることが大事です。

[E委員]

私はここ10年位、市立高校に出入りし、学校を見させていただいています。その中で、ここ数年、夢実現高校を目指すという目標に向かって、ものすごく先生方が努力していることが感じられ、生徒の様子も変わってきました。今までの伸び伸びとした商業高校の良さを残しながら、その中できちっと規律ある行動が出来る生徒が増えてきたことを実感しています。ここ1年間の授業の内容を見させていただいて、本当に素晴らしいな、こういう環境で生徒たちに高校生活を送らせてあげたいなと思っています。

その中で、夢実現高校を目指すのはわかりますが、まだ、中学生の段階で、自分の夢を持っている子はどれ程いるのでしょうか。夢探し高校というと少し語弊があるかもしれませんが、高校に来てから自分の夢を見つけるんだ、夢をこれから探すんだということでも十分ではないかと思います。市立高校を希望する生徒を少しでも受け入れてあげられたら良いと思います。申し込み段階で、定員の2倍も3倍も生徒たちが希望するくらいになればうれしいなと思います。最初からハードルを上げないで欲しいと思います。

[C委員]

スポーツ探究科がどういう生徒を要求しているのかが、まだ少し見えていません。県立高校でもスポーツ科をとということで、過去10年くらい前から立ち上げの準備をしてきましたが、骨子を固めようという時に話が潰れてしまい、なかなか実現しませんでした。施設的には、体育館にしる人工芝のグラウンドにしる、地域の人たちがたくさん使わせていただいていますし、生徒の変化の様子もわかります。スポーツ探究科は、生徒に素晴らしい夢を描かせてくれるところだと思いますが、この科の求めている生徒像、どういう生徒に来て欲しいのかを知りたいと思います。

[市立高校教職員]

スポーツ探究科は、単にアスリートを育成する学科ではないということをごこれまで外に対して説明してきました。全国の体育科、スポーツ科のある学校では、そのねらいとするところが2分されていて、私学中心でアスリートの養成を目指す学校と公立学校中心で体育教員や地域のスポーツイベント等のリーダーの育成を目指す学校に分かれます。市立高校は基本的には後者のタイプです。アスリートの育成だけではなくて、将来の富士市のスポーツリーダーを育成するのが市立高校のスポーツ探究科です。そのことを中学生や保護者に説明させていただいています。

[E委員]

最終的には、そういう結果になると思いますが、中学生くらいの感覚ですと、自分はプロになりたいとまだ思っているんですね。それで、将来食べていきたいと思って、サッカーや野球をやっている子どもがたくさんいます。高校になって大海を知り、自分の能力のレベルがわかってきて、プロは無理だから大学に行って先生になってサッカーの指導をやりたいとか、そういう風に進路が変わってくるのが現実だと思います。中学生段階では、自分はアスリートを目指したい、この世界で一生やっていきたいという思いでいる子どもたちが目指す学校でも良いのではと思います。

[C委員]

スポーツ探究科があれば、いろいろな部活動で全国を目指すという旗印の下で良い指導者が上を目指して取り組むことになり、そこにまた良いプレーヤーが集まってくると思います。先ほど話をお伺いして、私自身が描いていたのと少しいメージが違っていました。1クラスでどれだけできるかというのも非常に厳しいと思いますが、上を目指して指導者と交わる中で自分の将来を考え、いろいろな変化が出てくると思います。

[B委員]

たぶん、皆さんが一番ギャップを感じているのがこの部分だと思います。アスリート養成ではないと言いながらも、一般的に考えるとすごいアスリートが来ています。運動能力のことだけを教えるのではな

く、あらゆるスキル、例えばメンタルだとか科学的なトレーニングを教える。そして、一般的なスポーツの知識をもっと与えてあげて、次のステップのスポーツを目指す人たちを採りたいという学校側で標榜しているところも分かります。たぶん、一般の捉え方と一番ギャップがあるのがスポーツ探究科です。それに対する説明責任が必要だと思います。「市立が甲子園にいけば一番話が早い。」と極論をいう人もいますが、ある意味ではそれも事実でしょう。スポーツ探究科の構成も野球部など強い部活動の生徒がシェアを占めているのではないかと知らない人のほとんどはそう思っていると思います。たぶん、実態は違いますよね。そういうことも含めて、どこを目指すのかということを作っていかなければなりません。

ビジネス探究科が昨年定員割れを起こしました。この学科も世間から分かりにくかったのだと思います。ビジネス探究科と探究教育のことがわからないから、これの更なることを学校側で示したいというのが今日のテーマだと思っていたのですが、スポーツ探究科にも明確にすべきところがあります。今、スポーツ探究科は1クラスしかないので、ぎっしり人が集っています。もう少し、人数が増えれば、かなり開きが出て、いろいろな考え方の生徒が集ります。これについては、運営協議会の場で話し合うだけでなく、修正や改善もしなければならず、理念と現実とのギャップを埋める必要があろうかと思っています。創る時の理念を大切にしながら、スポーツ界やその分野で生きてきた方々の意見も聞きながら修正をしていくべきです。

[委員長]

これまでの意見で共鳴するところがいくつかありました。やはり、探究学習を核に据えていくことが、市立高校の特長になると思います。それが、モチベーションを高めることにつながりますので、その方法に期待したいと思います。そして、モチベーションを具体的な力に結びつけるときに、書く作業といいますか、文章力を高めるような指導をして欲しいと思います。

市立高校は、単なる進学校を目指すわけではないですが、一方でより高きを目指して進学したいという生徒に対しても応えるシステムが欲しいと思います。全員を対象にして、一斉に力を高めるというのは難しいと思いますので、ある程度限られた生徒でも結構ですので、その限られた生徒たちがより高い学校を目指したいという時に、それをサポートする体制を作っておいてください。

[B委員]

先ほど事務局から、探究学習は社会に通用する力は付くが大学入試に直接結びつきにくい、他校が重視しているのが直接大学入試に結びつくという説明がありました。時系列的にこういう分析をしていただいたのだと思いますが、ここは、「こうした生きる力を養成しているので、大学入試には絶対こちらの方が有利ですよ。」くらいな表現に変えて欲しいと思います。単なる進学校でないといっても進学校ですから、そういう生徒たちへのメッセージとして、「量的に知識を植えつけているわけではないけれども、探究は進学に結びついていて、AO入試や推薦入試だけに有利ではなく、一般入試でもこちらの方が絶対有利なんだ。」というくらいの意気込みがあっても良いのではと思いました。

[委員長]

本日は、「夢実現高校の理解について」ということで、委員の皆さまからかなり多くの意見を出していただきました。中学校からは、高校の方向性が見えないという意見があるのも事実だと思いますが、本日、学校像を再確認し、学校像の中には知りたいスイッチを入れるというモチベーションを高めるしくみも入っていることがわかりました。先ほどのチアリーダーのような、既に持っている強みをPRしていくことが大事であるという話が出されました。そして、生徒が夢を探し、夢を実現していくことができるような、そういう高校であるためにいろいろな意見が出されました。

本日出された意見につきましては、学校で精査していただいて、今後に生かしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

5 次回の開催日程

事務局より、次回の日程について説明する。

6 閉会